

2014年12月22日

日本銀行大阪支店

近畿地域金融経済概況

【全体感】

近畿地域の景気は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているが、基調としては緩やかに回復している。

すなわち、設備投資、輸出は増加しているほか、公共投資も増加傾向にある。個人消費は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響も徐々に和らぎつつあり、雇用・所得環境などが改善するもとで、基調としては堅調に推移しているとみられる。住宅投資は、弱めの動きとなっている。こうしたもとで、生産は、駆け込み需要の反動などから一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに増加しており、高めの水準となっている。この間、在庫は高めの水準となっている。雇用・所得環境は、賃金の増加等から雇用者所得も改善している。こうした中、企業の業況感、消費税率引き上げの影響もみられているが、引き続き改善傾向にある。

先行きについては、海外経済、為替相場や金融市場、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動などに注視が必要である。

【各 論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、増加傾向にある。

輸出は、電気機器を中心に増加している。

設備投資は、増加している。

個人消費は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響も徐々に和らぎつつあり、雇用・所得環境などが改善するもとで、基調としては堅調に推移しているとみられる。

10月の百貨店販売額は、前年を上回るなど堅調に推移している。10月のスーパー販売額は、飲食料品を中心に前年を上回っている。10月の家電販売額、乗用車販売は、駆け込み需要の反動などから前年を下回っている。この間、10月の外食売上高は、堅調に推移している。9月の旅行取扱額は、海外を中心に前年を下回っている。

住宅投資は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動が引き続きみられている中で、弱めの動きとなっている。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、駆け込み需要の反動などから一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに増加しており、高めの水準となっている。この間、在庫は高めの水準となっている。

生産を業種別にみると、白物家電などの電気機械や輸送機械では在庫調整が続いているものの、電子部品・デバイスはスマートフォン新製品向けの生産から増加している。この間、鉄鋼や化学は横ばい圏内となっている。

3. 雇用・所得動向

雇用情勢をみると、労働需給は改善傾向にあるもとで、賃金も前年を上回るなど、雇用者所得は改善している。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、消費税率引き上げの影響から、高めの伸び率となっているが、消費税率引き上げの影響を除くと、前年を上回って推移しているとみられる。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて落ち着いた動きとなっている。

6. 金融情勢

預金残高は、緩やかに増加している。

貸出残高は、住宅ローンの増加などを背景に前年を上回っている。

預金金利は、低水準横ばい圏内で推移している。

貸出金利は、小幅ながら低下している。

以 上